

J A R L

香川クラブ報

No. 363 平成21年2月15日



J A 5 Y D E

通常総会のご案内

平成 20 年度も残すところいよいよ後わずかとなりました。

本年度は、クラブ結成 60 周年行事や特別記念局「8J5KA60」、高松市との防災協定などクラブ史に残る大事業を始め各種行事が行われましたが、クラブ員各位のご協力を持ちまして、慌しかった一年が無事過ぎようとしています。

来たる 21 年度は、J A R L 香川クラブがますますアクティブに、そしてまた新たに歴史を築いて行かなければなりません。

そこで、クラブの通常総会を下記の通り行います。

年度末の大変お忙しい時期ではありますが、趣味の会ですので役員任せにするのではなく、会員一人一人が積極的に参加するクラブであるためにも、万障お繰り合わせの上出席下さいますようお願いいたします。

なお、出席の有無に関わらず同封しております葉書(欠席の場合は委任状)に近況などをご記入の上必ずご返送下さいますようお願いいたします。

記

日時：3月15日(日)

13:30~15:30

場所：高松市三谷町

三好事務所(右図)

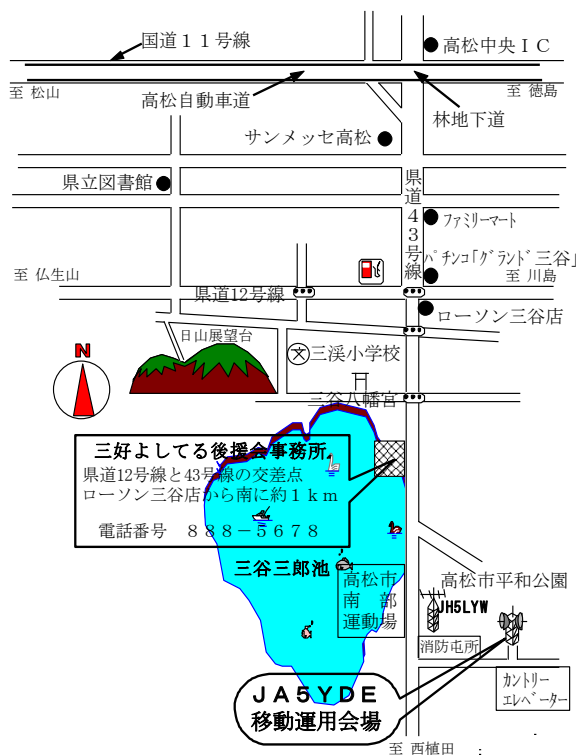
議題： 1. 平成 20 年度事業報告

2. 平成 20 年度会計報告

3. 役員改正

4. 平成 21 年度事業計画案

5. その他



盛況だった忘年会

毎年恒例の忘年会が、12月22日（月）に一昨年と同じの市内亀井町8-8

「しゃぶ亭まる」にて開催されました。定刻には参加者全員が揃い、しゃぶ鍋を前に三好会長の挨拶があり「今年はクラブ創立60周年の記念局運用をはじめ高松市との防災協定の締結や鹿児島での全日本ARDF大会、さぬき市門入ダム周辺での北四国ARDF大会で好成績を納めたこと、その他夏のフィールドミーティング（焼肉パーティー）、そして年末のマラソンコンテストではクラブ局の成果が等々クラブ員各位の積極的な活動でクラブの維持発展に協力戴いたこと」に対し謝意が述べられました。続いて、



天野名誉会長の乾杯の音頭で飲み放題、食べ放題の開始となり、予定の2時間もあっという間に過ぎ、宴たけなわを惜しみながら横田氏の掛け声で威勢良く＜高松一本締め＞で閉会となりました。お互いに自動車は無しで、思いっきり飲んで年忘れとなった方々無事にお帰りになられましたか。つづいて、「高松冬のまつり」に向われた方もあったとか、今回都合で参加出来なかった方も次回は是非ご参加くださるよう。

<参加者>JA5UY・JA5AHM・JA5IJL

JA5TFJ・JH5LYW・JH5PMZ・JE5BYS・JE5PBO・JF5ICA・JG5OBX・JI5XTP 11名

特報 人工衛星にアマチュア無線活用される！！

JA5TFJ

皆さんご存知の香川大学工学部能見公博准教授の研究室が開発実験中の超小型人工衛星STARS（KUKAI）が、1月23日12:54分、H2Aロケットにより種子島宇宙センターから打ち上げられ、所定の軌道を飛行していますが、この実験制御にアマチュア無線430MHz帯が使用されています。この実験には5年前位からJA5EMM、故JA5UAA、JA5UVTさん達が参加しており、今回の打ち上げ当日は、同大学工学部9Fの地上局に、JA5MG、JA5ARW、JA5TFJほか数名のものが同席し屋上のクロス八木アンテナで追尾の衛星からの微弱なCW信号を受信して解析に協力したところです。周回してきた衛星からはじめて電波をキャッチすることが出来たときには思わず感動するとともに、この様な席に同席して大変貴重な体験をすることが出来たことは生涯の思い出となりました。実験はこれから3カ月位の間、姿勢制御や写真撮影などの予定だそうですが、遙か天空からのCW電波を皆さんも受信してみても如何ですか。なお、ダウンリンクの周波数や衛星の周回周期など詳細は同大学のホームページを見るか、工学部研究室に照会してください

香川マラソンコンテスト結果発表

クラブ員5名がスケジュールを組んでマラソンコンテストに参加をしました。

各局忙しい中、時間を割いて各バンド、各モードを15日間積極的に運用され見事に社団局の部で2年連続優勝を果たしました。交信をしてくださったクラブ員の皆様ありがとうございました。また、今回参加できなかったクラブ員の皆様も次年度は積極的に参加をしていただけることをお願い申し上げます。

クラブ員の入賞者

社団局マルチバンド・マルチモードの部	1位	J A 5 Y D E
個人局マルチバンド・マルチモードの部	2位	J I 5 X T P
個人局 1.9MHz 帯電信電話の部	1位	J H 5 E Z B
個人局 7MHz 帯電信電話の部	1位	J A 5 T F J
個人局パケットの部	1位	J G 5 R S T

コンテストログ提出局

総数 55 局 クラブ員 8 局

(2006 年は総数 53 局 クラブ員 10 局、2007 年は総数 60 局 クラブ員 8 局)

※資料は J A R L 香川県支部のHPを参照

2008香川マラソンコンテスト集計票						
日付	交信数	区 分				
1日	7	バンド	局数	地域マルチ	モード	局数
2日	15	1. 9	14	8	CW	90
3日	15	3. 5	20	9		
4日	4	7	28	10		
5日	3	14	15	8	SSB	78
6日	82	21	26	9		
7日	27	28	25	9		
8日	9	50	24	7	FM	131
9日	20	144	56	15		
10日	2	430	63	13		
11日	13	1200	4	4		
12日	40	交信局数	地域マルチ	日数マルチ		
13日	16	合計 275 × (92 + 15) = 29,425				
14日	23	(総交信局数299局、県外局とダブリを除く有効交信局数275局)				
15日	23	OP:JA5TFJ/JH5EZB/JH5LYW/JG5OBX/JI5XTP)				
＜参考＞2003年11,859点、2004年17,408点、2005年33,852点、2006年20,202点、2007年28,700点)						

独り言：香川マラソンコンテストのあり方を考えてほしいとのコメントがあったが、県内局のみが参加を許されるコンテスト。ビギナーが参加をすればそれに対応した交信をしてくれ、QSYのやり方がわからなければ親切に指導してくれる。何よりも1年に1回だけ、お声が聞け昔話に話が弾む。他のコンテストでは絶対にこのようなことは味わえない。得点以上の楽しさがあるコンテストを替える必要が有るのでしょうか。まずは一人一人が1日でも参加をして楽しさを味わっては如何でしょうか。

ハムフェスティバル in 香川

J A R L 香川県支部主催で『ハムフェスティバル in 香川』が下記のとおり開催されます。年に一度の県内ハムの祭典です。ローカル各局お問い合わせ上、多数御参加下さいますようご案内申し上げます。

また『自作品コンテスト』は当日に審査を行いますので会場まで持参ください。

記

日 時 平成 21 年 2 月 15 日(日) 13時～16時
(但し受付は11時～13時30分迄)

会 場 丸亀市綾歌総合文化会館
愛称『アイレックス』 (昨年と同じ会場)

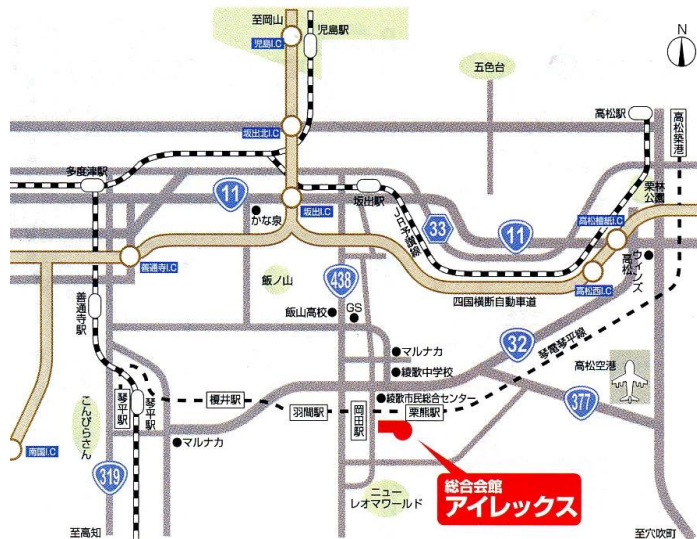
国道32号線 綾歌市民総合センター南側
琴電・琴平線 栗熊駅下車 徒歩 約10分

駐車場 会場南側 (無料)

催 物 自作品コンテスト、ジャンク市、メーカー展、
クラブ紹介等のブース (当日受付)

式次第 行事・予算・監査指導概要報告
講演 1.「D－STAR (仮称) アイコム株式会社
(ならやま研究所 桜井 紀佳 所長)

各種コンテスト表彰、お楽しみ抽選会



※資料は J A R L 香川県支部の H P を参照

「マラソンコンテスト雑感」

JA5TFJ 横田 寿夫

クラブの皆さん寒い毎日が続いていますが、如何お過ごしでしょうか。毎年の事ながら12月のマラソンコンテストが始まると今年もはや年末かと、一年を振り返る気持ちになるものですが、そのコンテストもついこの間終わったと思うのに、はや正月も終わり、時の経つのが一段と早く感じるのは自分の歳の所為でしょうか。「この年末の忙しい時にコンテストが始まったら家のことが何も出来んなあ!」「イヤイヤ今年は一日一局で止めるからな!」とここ数年来、家内との押し問答です。皆さんのお宅ではいかがですか。でも先輩OMの言によると、昔はこのマラソンコンテストは1カ月のロングランだった様で、それからみれば今は楽なものではないでしょうか。しかし、一度リグに向うとつい、もののけに取り付かれたようにコンテストに熱が入ります。もうほとんど病気ですね。それだけまた面白く魅力があるのかも知れません。

それにしても、今年のように空間状態が悪く、電波の飛びが落ちてしまっってはQSOも仲々大変でしたね。しかも、日数や地域等のマルチを達成するには大変苦労しました。1～2局との交信で参加されるのも大いに結構ですが、やはり得点を上げる為には、ある程度頭脳的に、常時出ている局、交信可能な局などを15日間計画的にいつ交信するか、また、交信点数の倍増にかかるマルチをいかに上手に増やすかなどを考えて交信する訳です。とは言っても交信出来るときにやって



おかないと次の交信機会は来ないかも知れない。となると出来る時に交信しておくことも大事でしょう。

また相手局と430MHzや145MHzバンドで連絡の上、別のバンドに移る等は邪道であり、必要とするバンドで「CQコンテスト」を出して、そこで応答を得て交信成立とするのが本筋だと言われるOMも居られます。正にその通りですが、前述の空間状態に加えて参加者が非常に少ない現状では、現実問題として難しいことです。また、このマラソンコンテストでは地理的問題や時間的に有利、不利の条件もありますが、私も現役時代は仕事が忙しくて「サンデー毎日の人とは勝負にならんわ!」「自分も退職して暇人間になったらコンテスト三昧やるぞ!」と思ったものです。しかし、暇になってみて昼間いくらCQを出しても相手がおられませんね。そんな訳で現役組の皆さんも暇人間も大差ないということです。問題はいつかのクラブ報にもありましたが、「いかにやる気があるか」「何事もやらなければ始まらない」の一語に尽きると思います。

つぎに、コンテストへの取り組みですがマルチでやるか、シングルで参加するか等は、それぞれ各人の得意分野があると思いますが、マルチ、シングル、FONE、CWにはそれぞれの楽しさがあります。ただ、マルチバンド・マルチモードでトライするには言うまでもなく、それ毎のリグやアンテナが必要な事は勿論ですが、即、どのバンド、どのモードにも対応できることが条件となります。シングルではその点楽ですが、それだけマルチバンドの面白さは半減と言ってもいいと思います。また、トライ部門の選択も

さることながら、コンテスト入賞にはエントリーの穴場狙いにも面白さがある様です。上手く穴場を狙えば交信局数が少なくても入賞のラッキーチャンスはあります。この辺も入賞狙いの方は過去数年分のエントリー状況や局数を見て、エントリーしましょう。でも、穴場と思ってログ提出しても、いざ蓋を開けてみると強敵が居たりして・・・というのもありますね。

また「あなたはいつもよく聞いていますね！」とよく言われますが、コンテストは常に耳を伸ばして、よく聞く事が肝要だと思います。そうすれば、どの地域の〇〇局がいつ頃よく出ている。等の情報がわかり、その中から必要な局をコールするというのも一つの方法でしょう。ただ、最近はメイン周波数でのコールが少なく、特定周波数でのコンタクト（いわゆる仲間の人脈というか、常々の交友関係にある局同志で・）が殆どというのが実情のようです。ここで、いかに心証を損なわずにスムーズにブレイクを入れるかが難しい問題です。気弱になっていては入れず、かといって厚顔で強引なブレイクは相手に大変悪い印象を与え、二度と相手にしても貰えなくなるでしょう。例えば、新しい局が出てくると多くの皆さんが待っているのが判っていても、関係なく長話を続ける・・・或は、弱い電波をキャッチしようとして何度も同じ呼び方を続けるのではなく、効果的な通話方法を考えるなど、エチケットとマナーそして上手な交信技術が必要でしょう。



私は常にワッチして上手なブレイクの掛け方など見習うように心がけている積りです。アマチュアコードにもありますが、良き社会人としてマナーを守る。健全なアマチュアとして仕事、学業、家庭を趣味の犠牲にしない。誰にも親切であり社会奉仕に努める。そして進歩的であるとは科学的に研究心旺盛であること。などを考えながらアマチュア無線を楽しみましょう。

最後に地域マルチが得点に大きく響くことを書きましたが、固定局では限られた地域で、限られたリグやアンテナでの運用となるとマルチの条件をクリアするのは中々大変難しいものですが、ここで最も有難いのが、移動してサービスをしてくれる局のご苦勞に助けられる点が非常に大きいということです。お蔭様で今回のコンテストでも地域マルチは全部戴くことが出来ました。この紙面をお借りして、移動サービスをして戴いた方々に厚く御礼を申し上げます。とともに、いずれは逆に自分が移動して皆さんのマルチ獲得に協力、恩返しをしなくてはと反省しているところです。

いずれにしても、県内の各局と年に一度の声を交わすことで、アマチュア無線の輪を広げ、活性化に繋がたいと思います。今年も年末までには、まだ大分時間があります。アンテナなどを整備して、楽しい（いや苦しい？）マラソンコンテストに一人でも多くの皆さん、大いに参加しましょう。今回もみなさまには本当にお世話になり、有難うございました。

「2008年全日本ARDF競技大会奮戦記」 (144MHz 本大会)

DE JF5MED

全日本大会の前夜祭はいつもの西と東の隔たりなく和やかなムードで例年おこなわれていますが、今回の前夜祭は例年とは違いただの食事会だけとなり意見交流会は前夜祭後の各部屋でおこなわれる運びとなりました。西日本を代表とするあつまりは、会場近くのキャンプ地を貸し切りにした状態で盛大におこなわれていました。

四国からは私と愛媛の FUL さん（私にとっては尊敬する ARDF の第一人者）といつも賑やかに場を盛り上げる LYW（三好会長）さんや UVT（詫間）さんは前夜祭には不参加な為、私的には寂しい本大会前夜祭でした。議題に出たのはやはり 2 年後あたりに四国で全日本大会をやるのかと言う事、日本国内で今まで使用されてきたミズホの FM 送信機の AM 改造化について、来年の Rig3 大会の事、今後ますます普及する 3.5Mhz の西日本大会の企画と言った所が意見交流会で話に出ました。

四国での全日本の話については、開催県にもよるが香川での引き受けは候補場所が 2 つ以上無く宿泊地などを考えても非常に厳しいと話しました。

送信機の AM 改造は 1 エリアの知り合いに頼んで改造して貰えないかと相談してみる事になりました。Rig3 大会は 3 エリアの植木 om からタイ国で開催とアナウンスが有り会場からは歓声が上がってました。3.5 西日本大会は、関西から発案されましたが話では 4 エリアもこの話に乗り気で今後合同大会の実現へとになりそうでした。

場が盛り上がりを見せてましたが毎年本大会の成績がダメなのは前夜祭での飲み過ぎが失敗の元なので私的にはアルコールを程々にして明日に備えて早々に宿舎に帰り床につきました。

明けて当日は曇り空、ARDF にはお天気は関係ないのですが雨は午後から降るといった情報が大会会場で聞こえており、スタート順の早い自分は競技中にはたぶん大丈夫だろうと受信機の雨対策はしませんでした。大会本部の指示の元に選手はバスで競技会場まで送迎、大会本部から 5 分ほど北東にある施設の体育館で自分のスタート時間まで待機してました。

本大会となるとエントリー数も増え 130 名前後にもなっていましたので、昨夜の前夜祭より賑やかな談笑があちこちで聞こえておりました。いつもならスタートまでのこの時間帯は全日本の緊張感で押しつぶされそうになるのですが今回は香川メンバーの参加も多く、いつもと変わらない時間つぶしの談笑が出来ましたので人数が多い地方大会の様な感覚でとてもリラックス出来ていたと思います。

さて私のスタートは全体の中盤ほどで競技中の集中力や感も TX 検索中は途切れる事が無く競技中では上手く事が運んだと思いました。スタート開始後の各 TX の方探やルート取り、先行するライバル選手の動向など集中力が散漫な時は見落としがちな点も今回は無くここ 1~2 年中、一番良かったです。

今思えば今年 1 年は中国製受信機の欠点と癖を半年ほどかけ丹念に調べ挙げ、OBX(丸山)さん関西の VEC(近藤)さんの指導のもと自分なりのアレンジを受信機に加えた半



ばオリジナル受信機の使用でしたので競技中は2mに多くみられる反射波で惑わされる事も香川メンバーの中では少なかったと思いました。

規定の5個のTXをわずか50分前後でとりゴールに向かっている最中に内心、今日のM21クラスは1時間前半の争いになるだろうと予想していました。ゴールに近づくにつれビーコンまでの地図読みの大事さを十分認識しながらゴール走行ライン入口にあるビーコン



目ざして受信機での方探、建物からは少し下った辺りからのビーコン波に吸い寄せられるかの様に確認後はここからゴールまで上り坂を最後の力を振り絞って全力で駆上がりながらゴールしました。ゴール後私が予想していた通りタイムは1時間03分56秒とこれならばと期待しながら後続のライバルたちの結果速報に注目しながら最終結果発表に注目してました。結果確定後のM21クラス発表で昨日に引き続き私が1位を取る事が出来、2位とは7分近いタイム差でしたので圧勝と言ったところでしょうね。



大会終了間際に降り始めた冷たい雨で連日の競技会参加と成績発表後の緊張感の緩みが重なり又、寒さから来る冷えに足腰への疲労がいっぺんに自身の体に来てしまいました。いつもなら表彰式には無縁なので早々に引き上げるのですが今回はUVT（詫間）さんもM60クラスで見事3位に入っていたので表彰式ではお揃いのジャンパーを背負い、四国勢ここに有りと知らしめたつもりでいました。

表彰も無事終わり終了後はUVT（詫間）さんの自家用車に便乗させ

ていただき一路鹿児島空港に、UVT夫妻とLYWさんはここから屋久島旅行に向かうため空港でお別れしたのちに私は飛行機の搭乗待ち時間までの時間つぶしに鹿児島の空港温泉（足湯）にゆっくりと浸かりながら体をいたわり帰路につきました。足湯の最中LYWさんから写メが送られてきて、何かなと覗けばそこには、豪華な伊勢海老と海産物の船盛りが映っていました。UVT（詫間）さんのお祝いだそうで、私自身のお祝いとは？と返信してやろうかとは思ったのですが大人げないと思いそれはやめました。

空港から自宅に電話した時、家に親せきからのお裾分けにと国内産マツタケが3本ほど届いているとの話に歓喜し全日本での総合優勝の件を伝える事無く手短かに電話を切ってしまった私に呆れるばかりでした。自宅に無事に帰りつき、今回の結果報告と手元に届いた秋の山の幸を家族共に喜び又、楽しみながらそれを肴にビールをいただきとても美味しかったです。詫間さん所の伊勢海老にも負けてない全日本のお祝いだと思つてますよ。

クラブ報の原稿大募集！！

身近な出来事、旅行記、自身のハムライフ、掲載要望などジャンルは問いません。
原稿はメール、郵送、引取他、ご一報を頂ければご連絡をいたします。

連絡先：事務局及びE-mail

まで

★★★ 新入会員募集中 ★★★

J A R L 香川クラブでは新会員を募集しています。

今年はクラブ結成 61 年目 (1948 年 10 月結成) になります。

そこで、更なる飛躍と新たな歴史を築いていかなければなりません。
クラブに新風を吹き込むと同時に、活性化のためにも新入会員の募集
にご協力ください。

JARL 香川クラブでは、会員サービスのために無線局免許状の期限切れについてお知らせをしていますが、免許状記載事項に変更があったり、新たに無線局免許状を取得した方は、その都度お知らせくださいますようお願いします。

将来のインターネットサービスに対応して、現在「電子メールアドレス」を取得している方は、差し支えなければ連絡下さい。

**前年度までの会費が未納の方は早急に納入をお願いします。
また、平成 20 年度会費につきましても早急に納入をお願いします。**

J A R L 香川クラブ報

発行責任者	J H 5 L Y W	三 好	伸 幸
編 集 者	J A 5 T F J	横 田	寿 夫
	J H 5 W M N	山 口	博 司
	J I 5 X T P	坂 内	信 洋